



只見町ブナセンターだより

<季節のごあいさつ>

この冬は降雪が少なかったことに加え、雪解けも早く、この時期の積雪の少なさに戸惑いながらも、やはり長い冬が終わり生き物たちが動きだす気配に心がワクワクします。これからは山野草の開花、ブナをはじめとする樹木の新緑が始まり、クロサンショウウオなどは産卵期を迎えます。人も動植物も活動的になる春の只見町。ぜひお越し下さい。

【只見町ブナセンター運営委員会】 3月18日(月)

只見町ブナセンター運営委員会の本年度2回目の会議を3月18日開催しました。はじめに只見町長からあいさつをいただいた後、事務局より平成30年度のブナセンター事業の報告を行い、委員の皆様よりご意見を頂戴しました。様々な話題がありましたが、全体をまとめると、町民に只見町の自然環境やそれを拠り所とした生活文化の良さを理解していただくことが大切であり、そのためにブナセンタースタッフがそのことについてよく調べ、勉強し、情報発信することが大切であると意見をいただきました。また、昨年度実施したブナ林フォーラムのようなゲストに只見町の自然の良さを評価していただく行事を継続することが提案されました。そのほか、SNSなどを積極的に活用した情報発信や、数値による事業成果の分析を行い、各事業を関連付け、年間を通した事業のバランスを評価する必要性が指摘されました。いただいたご意見を踏まえて、よりよいブナセンターの施設運営を目指し、努力していきます。続いて、運営委員会会長の渡部和子氏の報告・総括を掲載いたします。



▲運営委員会の様子

ブナセンター運営委員会は、年2回10名の委員で、年間行事である企画展、ブナセンター講座、自然観察会などの事業報告を受けて、その内容や成果についての意見交換を行っております。学校関係者からは、授業で利用しやすいと評価されました。友の会に所属する委員からはスタッフが足りないのではないかと質問がありましたが、この規模の博物館施設としては普通との回答でした。観光関係者の意見として、ただみ観察の森をもう少し利用できるのではないかと等意見もありました。他博物館の学芸員の方からは、事業の手応えや振り返りをしたり、広報による成果などをまとめることも必要かと思われる。そして全体的な事業の相関を検討し、ブナセンターの目指すものを誰にでも分かりやすく明確に伝える文章があればいいですねとアドバイスがありました。また、ある学芸員の方からは、まだまだ気づ

かれていない只見の自然や生活スタイルの魅力を町民含めてスタッフがもっと発掘に努力し、利活用されることに期待が大きいなど貴重なご意見をいただきました。スタッフの方々には Facebook や instagram などの情報発信の努力が望まれます。

私の個人的な考えとしては、存在感のあるブナセンターとなり、中心になって、只見らしい自然首都のあり方や便利さだけを追求せずに自然に寄り添った利活用を考えるきっかけをつくっていただきたいと思います。そしてそれを町民や町外に広められる施設が期待されるのではないのでしょうか。
(只見町ブナセンター運営委員会 会長 渡部和子)

===== 開 催 中 =====

【企画展アーカイブ】

只見の自然を食べる

過去に行った企画展を振り返る企画展アーカイブの第2弾です。只見町では、山に囲まれた豊かな自然環境の中で、自然産物の保存技術や調理法といった只見町独自の食文化が育まれてきました。しかし、地域独自の食文化は、社会経済の変化に伴い、徐々にその固有性、地域性が失われつつあります。

今回の企画展アーカイブでは、只見町の豊かな自然とそこに根ざした自然を利用する知恵を次の世代や只見を訪れた方々に改めて紹介します。



- 会 期：2019年4月22日(月)まで開催
- 場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

===== 開 催 予 定 =====

【特別企画展】

植物学者・河野昭一の世界 その生涯と只見

先般、ただみ・ブナと川のミュージアムの初代館長(後に名誉館長)を務められた河野昭一先生(京都大学名誉教授)が2016年10月14日に亡くなられてから2年が経ちました。河野昭一先生は、著名な植物学者であり、教育者として、また、自然保護運動の活動家としても多くの功績を残されました。只見町においても例外でなく、町史編さん事業の一環として行われた「ブナ林総合学術調査」をご指導され、その成果の中からブナ林に代表される只見町の自然環境の価値を科学的に裏付け、「奥会津森林生態系保護地域」の設定や世界自然遺産登録運動にも尽力されました。また、その後には只見町ブナセンターの設立や「ただみ・ブナと川のミュージアム」の開設を提案、その実現に大きな役割を果たされました。今日の只見町のブナ林を核とした町づくりや只見町ブナセンターの活動の基礎をつくった方といっても過言ではありません。本企画展は、植物学者河野昭一氏の経歴を追って、その業績を紹介し、只見町における活動と地域貢献を顕彰するものとして開催します。

- 会 期：2019年4月27日(土)～2019年9月2日(月)
- 場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

【自然観察会】

春の花観察会

- 開催日時：2019年4月28日（日） 12時30分～15時
- 集合場所：蒲生岳登山口駐車場 12時30分
(国道252号沿い、只見町蒲生字上原21)

- 観察場所：蒲生かたくり公園とその周辺
- 持ち物：飲み物、雨具 ※長靴が好ましい

新緑のブナ林観察会

- 開催日時：2019年4月29日（月・祝） 9時30分～14時
- 集合場所：癒しの森駐車場 9時30分 (県道352号、松坂峠)
- 観察場所：癒しの森
- 持ち物：昼食、飲み物、雨具 ※長靴が好ましい



【各回共通事項】

- 参加費：高校生以上500円、小中学生400円（保険料含む）
- 定員30名（事前予約制） 申し込み締め切り 4月26日（金）

※荒天時は観察地の変更や時間を短縮することがあります。

※お申し込み・お問い合わせは、只見町ブナセンターまで ☎0241-72-8355

※GW期間中の4月30日（火）は、付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」ともに開館いたします。

===== 活動報告 =====

【連携事業】 11月19日（月）、12月7日（金）、1月18日（金）

福島芸術計画×ASTTokyo2018 地域の文化資源を学ぶ学校連携ワークショップわたしの好きな只見

ブナの森の道具屋さん～お客は森の生きものたち～

福島芸術計画×AST Tokyo（東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業）は、福島県、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共同で主催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施する事業です。只見町ブナセンターの運営委員でもある福島県立博物館の小林めぐみ氏からお話をいただき、この度、初めての連携事業を実施しました。

講師として来られたアーティストの岩田とも子



▲ワークショップの様子

氏は、身近な自然物を介して、地域の方々と交流をしながら作品を作る活動をしています。只見振興センター、只見町教育委員会のご協力で、只見地区の放課後子ども教室に通う1年生～4年生の児童に参加していただきました。ワークショップのテーマは「ブナの森の道具屋さん」で、ブナの森で採集した自然物を使って森の生きものたちのための道具を考えようという活動です。3回にわたって行われました。活動の成果として、子どもたちの考えた道具のアイデア帳と岩田さんが制作した作品で「ただみ・ブナと川のミュージアム」休憩室の一角にミニ展示をつくりました（展示期間2019年1月18日～3月10日）。また、その後、いわき市の「浜風きらら」に移動し、3月15日～26日の期間展示されました。自然の中のなんでもないものが、アーティストの手にかかることで素敵なオブジェに変わりました。新しい自然の楽しみ方を教えていただくよい機会となりました。

*活動の様子や子どもたちの作品はインターネット（<http://www.tadami-buna.jp/artist.pdf>）で見ることができます。



【只見ユネスコエコパーク事業】 1月27日（日）

平成30年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会

平成30年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会が朝日振興センターで行われ、町内外から38名の方が参加されました。今年度で8年目となった「自然首都・只見」学術調査助成金事業ですが、これは只見町の自然環境、民俗・歴史について調査研究をし、科学的評価を行うことで、町の価値や魅力を高めることを目的とした事業です。今年度は助成を受けた研究者4名の発表に加え、平成29年度より5年間の予定で開始した沼ノ平総合学術調査の成果の中間報告が行われました。

助成金事業の報告では、ブナ林におけるブナ個体間・個体内での開葉日の違いについて調べた研究や伊南川におけるハリエンジュ（ニセアカシア）の分布特性についての研究、只見町に生育するヤマグルマ林の群集組成や林分構造の調査研究、只見町内の植物資源に含まれる機能性物質についての研究成果が発表されました。参加された皆さんは熱心に耳を傾け、質疑応答が活発に行われました。

沼ノ平総合学術調査については、調査団団長である新潟大学農学部教授の崎尾均氏から約2年間の植物調査の成果を報告いただきました。沼ノ平地域は、ブナ林をはじめとする自然度が高い森林が存在し、また、地滑り地帯という不安定で特殊な環境であるために、そうした環境に依存した生物が生息・生育している可能性が高いと考えられています。調査では、只見町の総面積の約0.4%であるにもかかわらず、只見町で分布が確認されている植物種の26%が確認され、また、これまで町内で確認されていなかった種も確認されたとの報告がありました。調査時の写真を交えながらの報告を参加者の皆さんは興味深く聞いていました。



▲スライドを見つめ、熱心に話を聞く参加者

まとめとして、地域の自然と文化を守るために外来生物を持ちこまないこと、そして昔からの環境を大事にすること、外来生物に早く気が付くために普段から周囲の環境に目を配り「自然を見守る」ことが大切であると教えていただきました。



【自然観察会】 3月10日（日）

冬の只見の体感しようー深沢集落 余名沢のブナ林

季の郷湯ら里の奥にある深沢集落共有林の余名沢のブナ林で自然観察会を開催しました。今シーズンは例年に比べ豪雪地帯只見の冬を体験するには雪が少ない状況でしたが、ブナ林までは、かんじきやスノーシューなどで晩冬のしまった雪の上を歩きブナ林を目指しました。

散策路脇の斜面では雪が薄くなり、たくさんの樹木が立ち上がっていました。この時期は多くの樹木が葉を落としており、森は寂しい感じがしますが、春に芽吹く葉や花は冬芽の中にすでに準備されています。冬芽には樹種によって特徴があり、冬の時期でも樹種同定の大きなヒントになります。ブナの冬芽は細長く尖っており多くの小片（芽鱗）で覆われています。オオカメノキの冬芽は裸芽と呼ばれ芽がむき出しになっていますが、毛によって覆われています。植物は様々な方法で冬の冷温や乾燥から葉芽や花芽を守っています。



▲冬芽を観察する参加者

余名沢のブナ林では、雪が樹木に与える影響やブナについて説明しました。雪が樹木に与える物理的な影響の一つは雪崩・グライドなどの斜面方向への力で、根曲りにその影響を見ることができます。もうひとつは、沈降圧による下方向にかかる力で、堅くしまっていく雪に枝が引っ張られることで下方向に伸びた下層の枝などにその影響があらわれます。特にブナはこうした雪圧の影響に対して他の樹木種より高い耐性があると考えられ、それが故に多雪環境でブナの純林が形成されます。余名沢のブナ林も小規模ではありながら、きれいなブナの純林です。根曲りしながらもずっと上まで伸びる様子にブナの力強さを感じました。



▲ブナ林での集合写真

観察会には、町内外から 20 名の方に参加いただき、只見の冬を体験することのできた観察会となりました。

【ブナセンター講座】 3月21日（木・祝）

只見の自然を食べる – 只見町の食文化の特徴

講師：平出美穂子 氏（福島の食文化研究家）

福島の食文化研究家、只見ユネスコエコパーク支援委員会副委員長でもある平出美穂子氏を講師にお招きし、企画展アーカイブ「只見の自然を食べる」に関連したブナセンター講座を開催しました。



▲講師の平出氏

講座では、只見町の食文化の特徴をテーマにお話をいただきました。自然食は、現在の日本ではとらえ方が変わってきましたが、もともとは、人工的な添加物を使用しておらず、自然界から生み出された山菜や川魚、海魚、家畜ではないクマやイノシシといった食品をいいます。豊かな自然に囲まれた只見町では、四季折々に、また、年中行事の中で自然食が食されてきました。自然を大切にし、その恵みを楽しみ、自然の中で自然を食する町であるといえます。

アク抜きの方法といった調理方法の特徴や特別な食事であるお平、につぼ、飯酢^{すし}などについて他地域と比較を交えて紹介されました。今回、参加された皆さんの割合は、只見町出身ではない方が多く、知らなかった料理もあったようで興味深く聴講されていました。

講座の最後には、「只見町の自然食を残していくにはどうしたらいいかみんなで考えよう」をテーマにグループワークを行いました。まず、個人でテーマについてアイデアを考えてもらい、その後グループで意見交換をし、まとめたものを各グループの代表の方が発表しました。どのグループからも「給食で自然食を提供する」、「料理教室を開いて食べてもらう」といった子供たちが自然食に触れる機会を増やすという提案があがりました。講座には町内外から19名の方にご参加いただき、一人一人が只見町の食文化について考える有意義な時間となりました。



【只見ユネスコエコパーク事業】 2月24日（日）～3月2日（土）

只見ユネスコエコパーク展（柏市）

ふるさと交流都市である千葉県柏市の柏駅前に位置するパレット柏をお借りして「只見ユネスコエコパーク展」を開催しました。パネルや現物展示を通して、只見ユネスコエコパーク地内の自然や伝統的な生活文化の概要、現在進行している関連事業など紹介・解説しました。開催にあたりたくさんの方にご協力いただき、また観覧いただきました。感謝申し上げます。



▲展示の様子

=====刊行物発行のお知らせ=====

ブナセンター刊行物が間もなく発行されます。刊行された際はブナセンターHPでご案内いたしますので、もう少しお待ちください。只見町ブナセンター付属施設での店頭販売だけでなく、郵送での販売もしておりますので、ご希望の方は、只見町ブナセンターまでお問い合わせください。

企画展解説シリーズ No.12

守りたい!只見の野生動植物－只見町の野生動植物を保護する条例

2017年12月～2018年6月に開催された表題の企画展を冊子化しました。「只見の野生動植物を保護する条例」を紹介するもので、只見町における自然環境と野生動植物の保護・保全活動の経過や町内で確認されている生息・生育の危機にある動植物種とその原因などについて紹介しています。後半部分では、条例制定の目的・理念から野生動植物の保護・保全に向けた対策などを解説しています。



只見の自然 只見町ブナセンター紀要 No. 7

只見町では「只見・自然環境・社会文化基礎調査」や「自然首都・只見」学術調査助成金事業」を行い只見町の自然や民俗・文化などについて調査・研究を進めています。本書は只見町の自然環境や野生動植物を保護・保全し、次世代に引き継ぐための学術調査研究報告書です。今回の紀要には、ブナの葉形質に及ぼす地形の効果や、只見町の湿原植生、広葉樹二次林の群集構造と土地利用履歴との関係、昆虫では、町内でのスズメバチ類の分布、ヨコヤマヒゲナガカミキリの後食樹種について報告が記載されています。また、ナラ枯れ被害域の継続調査、伊南川支流の魚類調査など内容は多岐に渡ります。内容の詳細はHPをご覧ください。

<編集後記>

今年度を思い返すと、たくさんの行事がありました。特に、「自然首都・只見」宣言10年を記念した全国ブナ林フォーラムが印象に残っています。他で活動をされる研究者や団体の方との交流の中で、私たちも只見町のブナの素晴らしさを再認識し、只見の自然・文化を守り、広く伝えることができるように頑張ろうと思いました。平成が終り、新年号になりますが今後とも只見町ブナセンターをよろしく願い申し上げます。(石川)

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）